

## 「HLH-2004 登録例における EBV-HLH に対する分子生物学的検討」 に関する情報公開

この研究は、厚生労働省・文部科学省の「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に準じて、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」を遵守します。この研究の概要は以下に情報公開致します。

- 1．国立成育医療研究センター小児がんセンターホームページ
- 2．日本小児がん研究グループ(JCCG)のホームページ

この研究の対象となるお子さんは、EB ウイルスが関連する血球貪食性リンパ組織球症(EBV-HLH)と診断され、日本小児白血病・リンパ腫グループ(JPLSG)による HLH-2004 による治療を受けられたお子さんです。

EBV-HLH では、EB ウイルスに感染した T リンパ球は異常が免疫反応を起こします。それによって過剰に活性化したマクロファージが血球貪食や体の中のいろいろな臓器にダメージを引き起こします。EBV-HLH は、治療を行うことなく治る人から、早期に適切な治療を行わないと命に関わるような重症の人までさまざまなタイプがあることが知られています。

どのような理由で症状が軽い人と重い人に違いあるのかはわかっていません。今回の研究では、EBV-HLH にも白血病やリンパ腫と同じような遺伝子の異常がないか、それが症状の強さの違いに影響しないかを調べる予定です。この研究で得られる知見により、新たな治療法の開発や治療法の適正な選択に役立つことが期待されます。

収集する検体は、診断時に採取した血液から抽出した DNA の残余検体です。新たに試料の採取をお願いすることはありません。また、臨床情報については診断時の情報や治療内容などであり、氏名や住所などの個人情報を含みません。なお、今回の研究への協力が難しいと思われる患者さまは、主治医にお申し出いただければ実務責任者及びデータセンターに連絡し、該当する資料を確認した上で削除致します。この研究に関するお問い合わせは下記までご連絡下さい。

問い合わせ先：

坂本謙一（国立成育医療研究センター小児がんセンター, TEL：03-3416-0181）